（管理規則第３条実施要領　別紙様式）



# ２０２５　年度（令和　７　年度）学校評価自己評価表

| 広瀬学園中学校区 | 校番84　１３８ | 福山市立広瀬学園小・中学校 |
|---|---|---|
| | 最終更新日 | 2025 年（令和７年）４月１日 |

## Ⅰ　福山市

ミッション　福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン　各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、
日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

## Ⅱ　中学校区

### 前年度学校関係者評価の主な内容

広瀬学園の取組に対して、
広瀬の子ども達が、自分らしく伸び伸びと過ごせるよう見守っていきたい。
学校側の取組をもっと，地域・保護者に発信し、広瀬のよさを伝えてほしい。協力できることは、今後もしっかりサポートするので、言ってもらいたい。

### 児童生徒の現状

学園生活に満足している児童・生徒、自分らしさを出しながら、自分のペースで学べていると感じる児童・生徒は多い。さまざまな個々の課題を抱える児童・生徒たちはそれぞれの背景を持つが故からか、とても優しい子たちが多い。自分自身に自信が持てなかったり、学びへの抵抗感を持つ児童も少なくないのが現状。

| | |
|---|---|
| 育成する資質・能力 | 「基礎的な知識・技能」「課題発見・解決能力」「コミュニケーション能力」 |
| めざす子ども像（義務教育修了時の姿） | 「自律」：夢や目標に向かって見通しをもちねばり強く行動できる姿<br>「共生」：友達の良さを認め課題解決にむけて共に取り組む姿 |
| 中学校区として統一した取組等 | 小中合同行事を効果的に仕組み，異年齢交流や大人数での活動を行い，児童生徒の「やればできる」「やってよかった」と感じる体験を積ませ，自己肯定感を高める。 |

## Ⅲ　自　校

### ミッション

「自律」と「共生」を核とした一貫性のある９年間を通した取組で、
「自分らしく　ハッピーに」生きる児童・生徒を育成する。

### 学校教育目標

心豊かで　主体的に学び　たくましく生きる子どもの育成

### 現　状

＜児童生徒＞

不登校傾向、大人数の集団に馴染めない等、さまざまな背景を持った児童・生徒が多く在籍している。年度途中から転入学する児童生徒も多い。そのため，学力の定着の差が顕著に見られ、自分を表現することや人間関係を築くことに課題があり、自己肯定感が低い児童生徒が多い。

＜授業＞

学園全体で、自分のペースで学べることを大切にしている。
児童・生徒が主体的に授業に取り組める工夫や異年齢での関わりを大切に取り組みを進めている。
基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させるために，学び直しや具体物を使って基礎的な事項の定着を図るなど個に応じた指導に取り組んでいる。

| | | |
|---|---|---|
| 育成する資質・能力 | | ①「基礎的な知識・技能」②「課題発見・解決能力」③「コミュニケーション能力」 |
| めざす子ども像 | | ①＜小１～小４＞　基礎的な知識・技能を身に付け，友達と共有し，自分なりの考えを表現することができる。<br>①＜小５～中１＞　基礎的な知識・技能を着実に身に付け，仲間や友達と共有し，自分なりの考えを表現しながら，生活や他教科と関連付けて使うことができる。<br>①＜中２～中３＞　基礎的・基本的な知識・技能を着実に獲得しながら，他者と協働し目的に応じた解決策を導き出すことができる。<br>②＜小１～小４＞　学びたいことややってみたいことを見つけて，実際に活動したり考えたりすることができる。<br>②＜小５～中１＞　自ら課題を発見し，見通しをもって解決方法や学習経計画を考えて，よりよい方法で実行することができる。<br>②＜中２～中３＞　物事を多面的に見たり，経験や知識を活用したりする中で，新たな課題を発見し，よりよい　解決方法を選択することで，目的に応じた解決策を導き出すことができる。<br>③＜小１～小４＞　目的や立場を理解して，他者と協力して活動することができる。<br>③＜小５～中１＞　多様な他者と互いに考えを認め合いながら，協働することができる。<br>③＜中２～中３＞　多様な他者と協働することで，新たな考えを創造し，適切かつ効果的な解決策を導き出すことができる。 |
| 研究 | テーマ | 「マイプロ」を通した自己理解の推進と自己探究力、表現力の向上 |
| | 内容等 | ○教科・学年の枠を超えた新教科「広瀬タイム」内の自己探究分野「マイプロ」を主材とする。<br>○「やってみたい」を軸とした課題の自己選択・自己決定、自己成長するための解決方法の選択、実行、より学びを深めるための情報収集や対話の推進、学びの振り返りと表現方法の選択などを含めた自己探究力育成 |
| めざす授業の姿 | | ○（授業の姿）　自分らしさを出しながら、どんどん自分で伸びようと成長しようとする授業<br>○（児童・生徒の姿）<br>①自己選択・自己決定　②豊富な失敗・試行錯誤　③フィードバック（振り返り）<br>④発信力・表現力　⑤協働する力　⑥人や情報とつながる力<br>○（教師の姿）<br>・与えすぎない，教えすぎない　・引き出す対話（ファシリテート力）<br>・環境の提供（人・物・場所）　・選択肢の提供　・つなげる力（人と情報と） |

# Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立広瀬学園小・中学校

| 年目 | 中期経営目標 | 重点 | 分類 | 短期経営目標 | 目標達成に向けた取組 | 評価指標 | 中間評価(10月1日) | | | | 最終評価(2月末) | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | □指標に係る取組状況 | プロセス評価 | 達成評価 | 改善方策 | □指標に係る取組状況<br>◎短期(中期)経営目標の達成状況 | プロセス評価 | 達成評価 | 総合評価 | 改善方策 |
| Ⅰ | 《デザイン部》<br>『自分らしく学び・伸びることができる児童・生徒の育成』<br>・主体的・自律的な学びの力<br>・個に応じた学力<br>の向上 | ★ | 新規 | ①自分らしさが出せる学びをデザインし、主体的な学びを推進する。<br>②自分らしい学びを進め、自分の学び方を習得し、個に応じた学力を向上させる。 | 「学習の個性化」<br>①広瀬タイムを通して自分らしさを出し、主体性を促す単元づくりを推進する。<br>①マイプロを通して探究型の学びを推進し、主体的に学ぶ力を育成する。<br>「指導の個別化」<br>②自分らしいペースで学び、自分の成長を実感できる自律型の学習を推進する。 | 【児童生徒アンケート　肯定評価80%】<br>① について<br>・自分らしさを出して行事・イベントに参加できた。<br>・マイプロは自分らしく学ぶことができ、探究する力がついたと感じる。<br>②について<br>・授業では自分にあった内容やペース、学び方などを選択することができる。<br>【福山市学力調査】<br>・「学力の伸びがみられる」 | | | | | | | | | |
| Ⅰ | 《サポート部》<br>『自分らしく生活し、ハッピーと感じられる、未来への希望が持てる児童・生徒の育成』<br>・学校満足度<br>・自己肯定感<br>の向上 | ★ | 新規 | ① 自分らしく生活できる居場所づくりを進め、行きたいと思う魅力ある学校づくりを進める。<br>②自分自身の理解を進め、自らの生活の課題を克服できるように、個に応じたサポートを展開する。 | ①一人ひとりの違いを認め合い、自分らしくいられる風土づくりを学校全体で進める。<br>①小中の隔てなく職員と児童生徒の関わりを進め、安心できる信頼関係を構築する。<br>②すべての児童生徒一人一人に焦点を当て、長期的な視野を持ち計画的な支援を継続する。<br>②個別のサポート計画を活用し、自らの良さを伸ばし、課題に向き合いながら成長させることで自己肯定感の向上を図る。 | ①について<br>【児童生徒アンケート　肯定的評価80%】<br>・自分らしさが認められている。<br>・学園に信頼できる先生（話しやすい先生）がいる。<br>②について<br>【教師アンケート肯定的評価100%】<br>・一人一人に計画的・継続的な支援を続けた。<br>【児童生徒アンケート80%】<br>・個別のサポート計画を通して、得意・不得意など自分を知ることができた。 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅰ | 《総務部》<br>『自分らしさが出せる、強みを活かせる教職員の育成』<br>・自分らしさが出せる風土醸成<br>・自分らしさを活かした参画意識の向上 | ★ | 新規 | ①　自らの強みや自分らしさについてお互いの良さを認め合い、強みを発揮できる場を豊富に設定していく。<br>②　小中の対話の機会を増やし、９年間を通して児童・生徒を育てる意識を高めていく。 | ①MTH研修等での対話を通して、強みや自分らしさをお互いに認め合える風土を醸成する。<br>②学園ミーティング、学園分掌会等　小中の枠を超えた対話を多く取り入れ、小中一貫の学園風土を構築する。 | 【教職員アンケート　８０%以上】<br>①職場で自らの強みや自分らしさが認められている。<br>②小中の枠を超えた対話が増え、学園としての意識が高まった。 | | | | | | | | | |
| Ⅰ | 《総務部》<br>『保護者・地域から信頼される学校』 | | 新規 | ①　保護者・地域との連携の機会や交流の機会を増やし信頼度アップにつなげる。<br>②　情報発信の方法を工夫し、より学園の取組について理解を進める。 | ①グラウンドゴルフ、マイプロサポートなど、昨年度以上に参画してもらう機会を増やしていく。<br>②学園祭などのイベント企画案内をより広範囲に発信し、見に来ていただく。<br>②様々な機会を通して地域・保護者への情報発信（すぐーる・ＨＰ・SNS等）を積極的に行う。 | 【保護者アンケート　肯定的評価80%】<br>・「学校の取組に満足している。」<br>②について<br>・学園祭等への見学参加者300人<br>【保護者アンケート　肯定的評価80%】<br>・広瀬学園の教育方針や教育活動、児童・生徒の様子は、通信やメール、ホームページ等によって、知ることができている。 | | | | | | | | | |

［プロセス評価の評価基準］

| 評点 | 評価基準 |
|---|---|
| 5 | 取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が十分に図られた。 |
| 4 | 取組の目的に対する共通理解が認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が概ね図られた。 |
| 3 | 取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決がある程度図られた。 |
| 2 | 取組の目的に対する共通理解が認められ難く，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。 |
| 1 | 取組の目的に対する共通理解が認められず，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。 |

［達成評価の評価基準］

| 評点 | 評価基準 |
|---|---|
| 5 | 目標を大幅に達成し，十分な成果をあげた。 |
| 4 | 目標を概ね達成し，望ましい成果をあげた。 |
| 3 | 目標をある程度達成し，一定の成果をあげた。 |
| 2 | 目標を下回り，成果よりも課題が多かった。 |
| 1 | 目標を大きく下回り，成果が認められなかった。 |

［総合評価の評価基準］

| 評点 | 評価基準 | |
|---|---|---|
| 5 | １００％以上の達成度 | 十分に目標を達成できた。 |
| 4 | ８０％以上１００％未満の達成度 | 概ね目標を達成できた。 |
| 3 | ６０％以上８０％未満の達成度 | ある程度目標を達成できた。 |
| 2 | ４０％以上６０％未満の達成度 | あまり目標を達成できなかった。 |
| 1 | ４０％未満の達成度 | 目標を達成できなかった。 |